

62.

静岡縣下賀茂温泉の硅藻類*

根來 健一郎

(東京文理科大學植物學教室)

I. 緒言

内陸鹹水域に於ける硅藻群落に就ては Fr. Hustedt (1925)¹⁾, R. W. Kolbe (1927)²⁾, G. Krasske (1927)³⁾, R. W. Kolbe und E. Tiegs (1929)⁴⁾, H. Budde (1930)⁵⁾ 等の研究がある。我が國には諸所に少からざる内陸鹹水域が存在するが、之等に於ける硅藻類の研究は未だ皆無と言つてよい。そこで著者は數年前より此の方面の研究を開始し度いと考へてみたが、最近無機酸性水域の硅藻群落について研究するに及び、比較の爲めに益々その研究の必要性を痛感するに至つたので、第一歩として伊豆の下賀茂温泉の硅藻類に就て研究を行つた。ここにその研究結果の要點を報告する。

II. 下加茂温泉

下賀茂温泉は静岡縣下田町の西方約 8 km の地點、伊豆南街道に沿う

* K. Negoro, Bacillariophyten aus den heissen Kochsalzquellen von Simogamo, Sizuoka Präfektur, Japan.

日本の内陸鹹水域に於ける硅藻類の研究, 邦文報告 第 1 號.

1) Hustedt, Fr.: Bacillariales aus den Salzgewässern bei Oldesloe in Holstein. *Mitt. d. Geogr. Ges. u. Naturhist. Museums Lübeck*, II Reihe, Heft 30, S. 84-121. 1925.

2) Kolbe, R. W.: Zur Ökologie, Morphologie und Systematik der Brackwasser-Diatomeen. Die Kieselalgen des Sprenger Salzgebiets. *Kolkwitz's Pflanzenforschung*, Heft 7, Jena. 1927.

3) Krasske, G.: Diatomeen deutscher Solquellen und Gradierwerke. *Arch. f. Hydrobiol.*, Bd. 18, S. 252-272, 1927.

4) Kolbe, R. W. und Tiegs, E.: Zur mesohaloben Diatomeen-flora des Werragebietes. *Ber. d. Deutsch. Bot. Ges.*, Bd. 47, S. 408-420. 1929.

5) Budde, H.: Die mesohaloben und halophilen Diatomeen der Lippe in Westfalen. *Ber. d. Deutsch. Bot. Ges.*, Bd. 48, S. 415-419. 1930.

[醫學と生物學・第 1 卷・第 5 號・頁 211-215・昭和 17 年 3 月 5 日]

た青野川の流域に在る。温泉は川畔の到る處に湧出し、その數は現在鑿泉 40 餘箇所に及び、その中には高さ 9m にも達する噴泉なども見られる。青野川を挟んで展けた細長い田圃の中に、之等の噴泉塔が諸所から白い蒸氣を噴き上げ、旅館が農家に入交つて點在すると云ふ誠に野趣横溢した温泉場である。

泉質は鹽化土類含有食鹽泉である。即ち次に掲げる内務省衛生試験所の分析表⁶⁾によつて明かな如く NaCl と CaCl₂ とが主成分で、又近年に於ける福富孝治氏の測定⁷⁾によると、温泉水 1 立中の Cl イオンの含有量は 12.5g から 16g に及び、Ca イオンの含有量は 3.0g から 3.5g に達する。泉温は一般に高く、攝氏 100 度以上に及ぶものもある。更に温泉水の反應に就て見るに、先に本温泉の動物相を研究せられた岡田彌一郎、上村三男兩氏の報告⁸⁾によれば、中性乃至微アルカリ性で、その pH は 7.0-7.8 の範囲内にある。

下賀茂温泉水分析鹽類表

	50番地温泉 (g/1kg)	寶の湯 (g/1kg)
NaCl	6.7278	9.6852
CaCl ₂	3.8211	5.8306
KCl	0.2741	0.4619
NH ₄ Cl	0.0016	—
NaBr	—	0.0243
CaSO ₄	0.1330	0.2688
MgSO ₄	—	0.0877
Al ₂ (SO ₄) ₃	—	0.0019
Ca(HCO ₃) ₂	0.0406	—
Mg(HCO ₃) ₂	0.0261	0.0076
Fe(HCO ₃) ₂	0.0066	0.0029
HBO ₂	0.2815	0.0056
H ₂ SiO ₃	0.1365	0.0849
合計	11.4589	16.4614

III. 研究材料

昭和10年7月29日に著者は著者の弟で當時東京高等師範學校理科三部第四學年生徒であつた根來 茂(昭和11年1月27日急逝)と共に、下賀茂温泉の藻類植生の調査を行つた。

6) 内務省衛生試験所：日本鑿泉分析表。衛生試験所彙報。34號，1929。

7) Fukutomi, T.: Physical and Chemical Properties of the Simogamo, Rendaizi und Simokawazu Thermal Springs in Southern Idu Peninsula I. *Bull. Earthquake Research Inst.*, Vol. 14, pp. 259-269, 1936.

福富孝治：温泉の物理。東京。1936。

8) 岡田彌一郎、上村三男：日本に於ける温泉動物の研究(XVIII)。鹽類泉靜岡縣賀茂郡下賀茂温泉の動物相。陸水學雜誌。8卷，483-488頁，1938。

我々は東海バス停留所から南方へ進み、青野川に架せられた橋を渡り切つた所にある福田屋旅館の附近の二箇所の湧泉で、温泉水の温泉度及び水素イオン濃度を測定し、泉源から河中に至る温泉水の流れに従つて温度を異にする箇所で夫々藻類標本を採集した。即ち、

A. 福田屋旅館西方の川畔湧泉

川岸田圃の堤上にある噴泉、塔を造つて温泉水の田圃に流れ入るを防ぐ、源身温度約100°C, pH 7.2. 標本番號 1. (65°C), 2. (55.5°C), 3. (40°C).

B. 福田屋旅館側、橋下の湧泉

川岸堤下にある石垣圍ひの湧泉、村人が野菜、卵等をゆでるに使用する。源身温度85°C, pH 7.3. 標本番號 4 (85°C), 5 (81°C), 6 (62.5°C), 7 (60°C), 8 (40°C), 9 (37°C).

IV. 研究結果

扱て此の材料(合計9箇の標本)を用ひて研究した結果によると、下賀茂温泉の硅藻類は温度65°C以下の箇所に生育し、その種類の數も量も共に甚だ豊富である。調査した兩湧泉の硅藻フロラは殆んど等しく、見出された種類の數は全體で49種にも及ぶ。今それ等を屬別にして示すと次の如くである。

Melosira(1), *Stephanodiscus*(1), *Fragilaria*(1), *Synedra*(2), *Cocconeis*(1), *Achnanthes*(2), *Rhoicosphenia*(1), *Gyrosigma*(1), *Caloneis*(1), *Neidium*(3), *Navicula*(7), *Pinnularia*(4), *Amphiprora*(1), *Cymbella*(3), *Gomphonema*(1), *Rhopalodia*(1), *Hantzschia*(1), *Nitzschia*(11), *Surirella*(6).

下賀茂温泉に多量に出現する硅藻は、

Amphiprora paludosa W. Smith(Fig.1).

Surirella angustata Kütz. var.(Fig. 2).

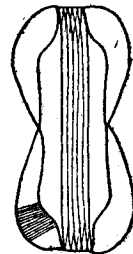
Surirella ovata Kütz. var. *salina* (W. Smith) Hustedt?

Achnanthes kizaki Skvortzow

Nitzschia obtusa W. Smith var. *scalpelliformis* Grun.

Nitzschia palea (Kütz.) W. Smith

Nitzschia Hantzschiana Rabh.



0 5 10 μ

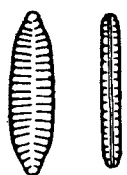
Fig. 1. *Amphiprora paludosa* W. Smith

Nitzschia frustulum (Kütz.) Grun. var. *subsalina* Grun.

Navicula simplex Krasske

Cymbella ventricosa Kütz.

等で、この中で *Amphiprora paludosa* と *Surirella angustata* の一變種とが最も著しい。*Amphiprora paludosa* は内陸鹹水域に産する硅藻として知られてゐるものであつて、下賀茂温泉の硅藻フロラを最も力強く特徴づけるものである。*Surirella angustata* の一變種は *S. angustata* に似るもその両端が少しく突出して居る點でそれと異なる。多分新變種であらうと思はれる。著者は最近之と全く同じものが阿蘇地獄温泉元湯硫氣孔原附近の中性水域に多量に産することを見出した。



0 5 10 μ

Fig. 2. *Surirella angustata* Kütz.
の一變種

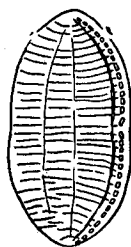
著者は最近之と全く同じものが阿蘇地獄温泉元湯硫氣孔原附近の中性水域に多量に産することを見出した。

なほ、その量は餘り多くはないが鹹水或は汽水産の硅藻として著名なもので、本温泉に見出されるものが數種ある。即ちそれ等は、

Surirella Capronii Brébisson

Nitzschia triblionella Hantzsch var. *victoriae* Grun. (Fig. 3).

Nitzschia Lorenziana Grun. var. *subtilis* Grun.



0 5 10 μ

Fig. 3. *Nitzschia triblionella* Hantzsch
var. *victoriae* Grun.

Nitzschia closterium (Ehr.) W. Smith

Nitzschia obtusa W. Smith

Nitzschia commutata Grun.

Navicula pygmaea Kütz.

Rhopalodia gibberula (Ehr.) O. Müll.

var. *Van Heurckii* O. Müll.

Stephanodiscus dubius (Fricke) Hustedt

等で、上記の *Amphiprora paludosa*, *Nitzschia obtusa* var. *scalpelliformis*, *Surirella ovata* var. *salina*?, *Nitzschia frustulum* var. *subsalina*等を加へると、下賀茂温泉の硅藻群落は12種にも及ぶ鹹水性の種類によつて著しく特徴づけられてゐる。

又鹹水域或は汽水域に限られたものではないけれども、之等の水域に屢々出現するものとして、下賀茂温泉の硅藻類中著しいものには、上記

の *Nitzschia palea*, *Nitzschia Hantzschiana*, *Cymbella ventricosa* の他に,
Pinnularia Bruunii (Cleve) Grun. var. *amphicephala* (A. Mayer)

Hustedt

Synedra ulna (Nitzsch) Ehrenb.

Cocconeis placentula (Ehr.) Hust. var. *euglypta* (Ehr.) Cleve

Fragilaria construens (Ehr.) Grun.

Navicula pupula Kütz.

等がある。

(受附: 昭和17年1月26日)